

予報期間 6月16日から6月22日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 18日は、日本の南に高気圧が張り出し、北日本を気圧の谷が通過する。
- 19日から20日は、高気圧は日本の東へ移動し、ゆっくり東進する。
- 21日から22日は、低気圧が中国東北区からサハリン付近に進み、前線が北日本から日本海付近にのびる。

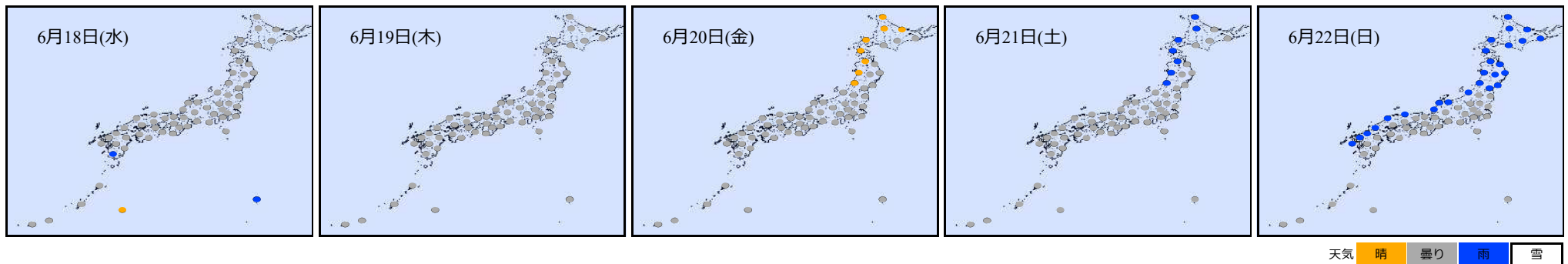
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

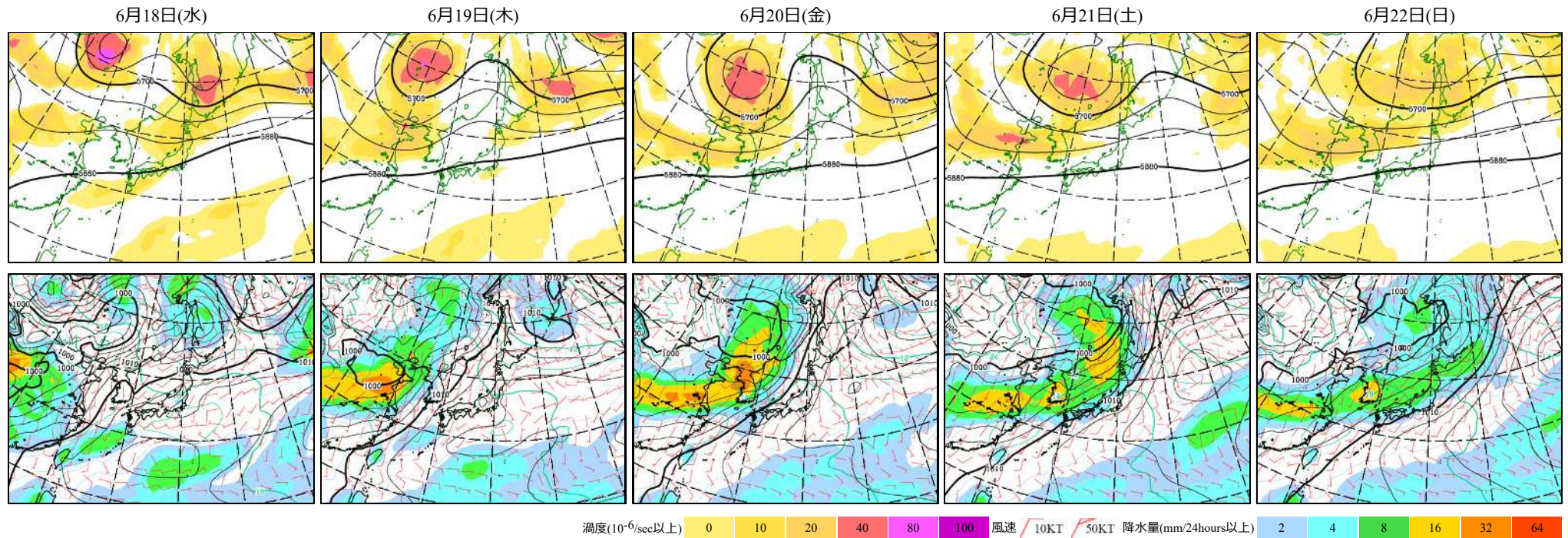
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

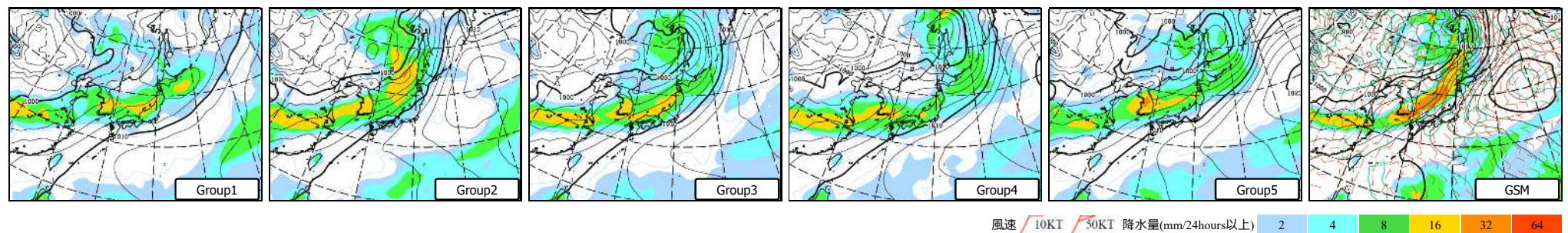


- 北日本は、18日から20日は曇りまたは晴れとなり、21日から22日にかけて雨や曇りとなる。
- 東日本は、雲が広がりやすく、22日は雨の降る所がある。
- 西日本は、雲が広がりやすく、18日と22日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲の広がりやすい日が続く。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月22日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日以降に中国東北区付近を東進するトラフの動きが早まった。地上の気圧配置の予想についても、大陸から接近する気圧の谷の東進が早まり、21日に北日本から西日本の日本海側で降水の可能性が大きくなった所が多い。
- 各モデルともに大陸のトラフの東進が早まる傾向で、期間の前半にかけてはモデル間の差は比較的小さい。期間の終わりは、海外モデルはトラフが深まりながら、沿海州から日本海付近に接近する予想をしており、日本付近の高度場が比較的低い。前線の位置についても、GSMより南寄りに予想しており、モデル間で差が見られる。ENSメンバーの中には、海外モデルに近い予想をするメンバーも一定数含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。